

未来から信頼される建設会社へ。



 前田建設
<http://www.maeda.co.jp>

MAEDA CSR REPORT

データブック



お問い合わせ先

前田建設工業株式会社

CSR・環境部

TEL: 03-5276-5134(ダイヤルイン)

URL: <http://www.maeda.co.jp>



前田建設

MAEDA

MAEDAのコミュニケーションツール

MAEDAのコミュニケーションツールの構成

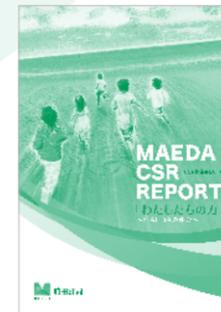
MAEDA CSR REPORT

CSR報告書2014

データブック

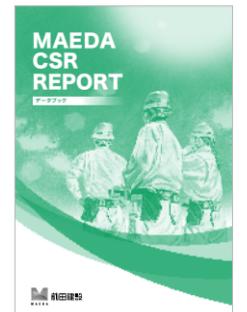
目次

- 2 MAEDAのコミュニケーションツール
- 3 MAEDAのCSR体系
- 4 MAEDAのCSRとISO26000の関係性
- 4 MAEDAの中長期環境目標
- 5 MAEDAの2013年度におけるCSRの取り組みと主なKPI
- 7 トピックス 「地球への配当」が及ぼす“力”を検証する
- 9 MAEDAの「CSRの4本柱」に関する活動データ報告
 - 9 ●「法令等遵守(コンプライアンス)」
課題：企業統治、コンプライアンス、人権・人事・労務、教育・研修
 - 11 ●「優れた建造物・建設サービスの提供」
課題：品質、安全、技術開発、CSR調達
 - 13 ●「環境保全への取り組み」
課題：地球温暖化防止、廃棄物対策、生物多様性
グループ会社の環境データ一覧
 - 20 ●「企業市民としての社会・地域貢献活動」
課題：人材育成、コミュニケーション
- 22 外部表彰・外部評価



MAEDA
CSR REPORT 2014

MAEDAおよびグループ会社が取り組んでいるCSR活動を中心に紹介しています。2部構成になっており、パート1では事業活動などを通して当社の考えや戦略を述べ、パート2では当社の「CSRの4本柱」を軸に2013年度の取り組み実績を報告しています。



MAEDA
CSR REPORT 2014
データブック

MAEDA CSR REPORT 2014で報告したCSR活動の補足およびKPIについて、経年変化と目標値を示し、その状況をお伝えしています。



MAEDA
ANNUAL REPORT

主に海外投資家を対象とし、財務情報、国内外工事情報、CSR活動などの実績とともに、当社の今後の事業戦略についても報告しています。

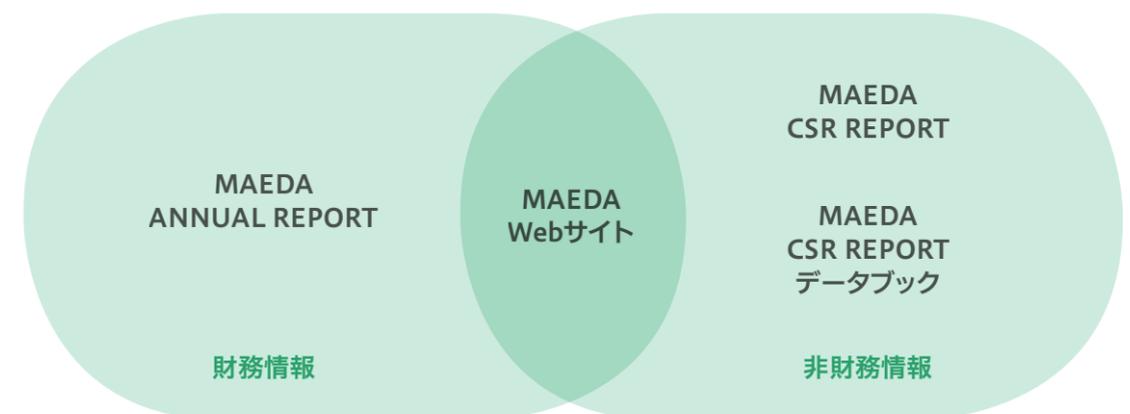


MAEDA
Webサイト

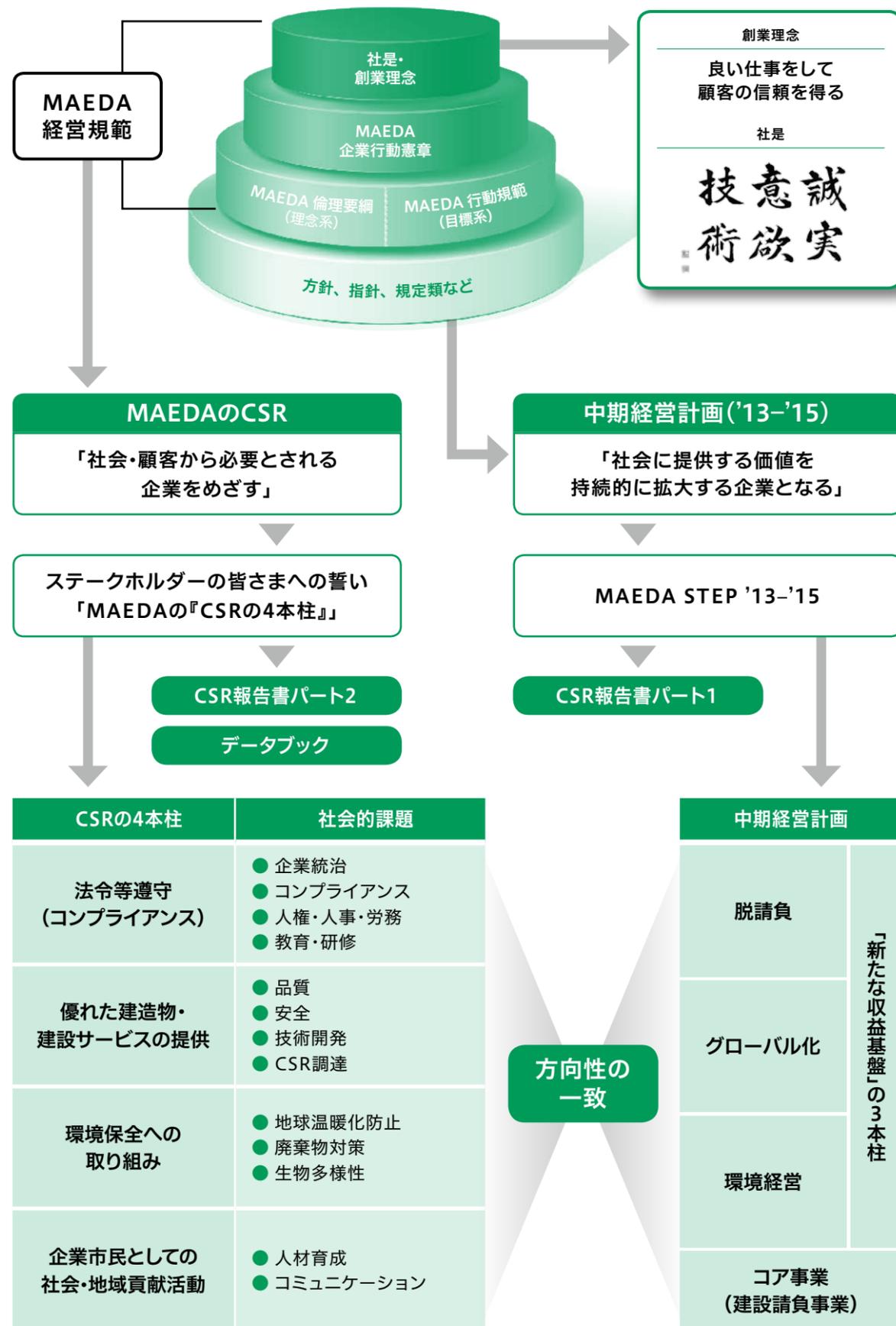
MAEDAの財務情報については「IR情報」サイトにおいて情報公開し、非財務情報については「CSR」サイトにおいて報告しています。

IR情報：<http://www.maeda.co.jp/ir/index.html>
CSR：<http://www.maeda.co.jp/csr/index.html>

MAEDA コミュニケーションツールの主な位置づけと関係性



MAEDAのCSR体系



MAEDAのCSRとISO26000の関係性

CSR報告書2014は、MAEDAの「CSRの4本柱」を主軸として、各取り組みについて報告しています。当社のCSRの取り組みと、ISO26000の関係性を以下の一覧表に記します。

MAEDAの「CSRの4本柱」	社会的課題	CSR報告書2014 報告項目	ISO26000 7つの中核主題						
			組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	コミュニティ参画および開発
法令等遵守 (コンプライアンス)	企業統治 コンプライアンス 人権・人事・労務 教育・研修	●ガバナンス体制と内部統制の運用 ●リスクマネジメント ●コンプライアンス ●健全な職場環境の構築、人材の育成	●	●	●		●		
優れた建造物・建設サービスの提供	品質 安全 技術開発 CSR調達	●品質・安全に関する取り組み ●技術開発に関する取り組み ●調達に関する取り組み				●	●	●	
環境保全への取り組み	地球温暖化防止 廃棄物対策 生物多様性	●環境保全活動の浸透・定着に向けたしくみづくり ●地球温暖化防止に関する取り組み ●循環型社会の構築に向けて ●生物多様性への取り組み				●		●	
企業市民としての社会・地域貢献活動	人材育成 コミュニケーション	●MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用 ●社会・地域とのコミュニケーション ●MAEDAグループのCSR・環境活動				●			●

MAEDAの中長期環境目標

MAEDAはこれまで、施工段階におけるCO₂排出量の削減について、2020年と2050年の中長期目標を掲げていました。近年のエネルギー事情、社会状況を考慮し、今年度から新たな中長期目標を掲げましたので、以下に報告します。

地球温暖化防止に向けた中長期目標

施工段階において1990年度比で	2020年までに	2030年までに	2050年までに
	総排出量 60%削減 (原単位: 35%削減)	総排出量 70%削減 (原単位: 50%削減)	総排出量 85%削減 (原単位: 75%削減)

循環型社会の構築に向けた中長期目標

施工段階において2030年までに **「リサイクル率(汚泥等※除く)100%」**

※建設汚泥、石膏含有廃棄物、特別管理型廃棄物

MAEDAの2013年度におけるCSRの取り組みと主なKPI

当社のCSRの指標である「CSRの4本柱」を軸に、それぞれの軸で捉えている社会的課題、CSR報告書2014の報告項目、各項目で取り組んだ内容とそのKPIについて、それぞれの関係性を以下の一覧表に示します。

MAEDAの「CSRの4本柱」	「CSRの4本柱」に属している社会的課題	CSR報告書2014 報告項目		報告項目における主な取り組み	取り組みに関するKPI	KPIの達成度指標	データブック対応ページ	ISO26000 7つの中核主題		
		社会課題に対する活動項目	CSR報告書2014 対応ページ							
法令等遵守 (コンプライアンス)	企業統治 コンプライアンス	ガバナンス体制と内部統制の運用	P.31	理念等の浸透・定着	経営規範に関する教育	新入社員参加者率	P.9	組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行		
		リスクマネジメント	P.32	BCPへの取り組み 情報安全	BCP訓練における安否確認 情報安全月間イベント参加者	回答率 参加者数				
		コンプライアンス	P.33	CSR・コンプライアンス	CSR戦略会議の実施 CSR・コンプライアンスアンケート CSR・コンプライアンスレター発行	実施回数 回答率 発行回数				
	人権・人事・労務 教育・研修	健全な職場環境の構築、人材の育成	P.33~34	人権・人事・労務への対応	人権問題に関する教育・研修	1,3,5年次参加者率	P.10			
					障がい者雇用	雇用率				
					定年者再雇用	再雇用率				
					育児休業	人数				
	優れた建造物・ 建設サービスの提供	品質 安全	品質・安全に関する取り組み	P.35~36	現場における安全への取り組み	安全成績	度数率 強度率		P.11	消費者課題 公正な事業慣行 環境
						技術開発	技術開発に関する取り組み			
		CSR調達	調達に関する取り組み	P.39~40	CSR・グリーン調達の推進		施工段階のグリーン調達率(指定11品目)		調達率	
オフィスの文具類グリーン調達率						調達率				
環境保全への 取り組み		地球温暖化防止	環境保全活動の浸透・定着に向けたしくみづくり	P.41~42	環境教育の充実	集合教育による環境意識の向上	実施回数	P.13		
						eco検定取得者数の向上	取得者率			
	環境に関するしくみの充実				地球への配当	実績額				
					グリーンR&Dの採用件数	件数				
	地球温暖化防止に関する取り組み	P.43~44	地球温暖化防止に向けた取り組み	建物運用段階におけるCO ₂ 排出量抑制	削減率	P.15				
				施工段階におけるCO ₂ 排出量の削減	原単位					
				オフィスの電力使用量によるCO ₂ 排出量削減	排出量 原単位	P.16				
	廃棄物対策 生物多様性	循環型社会の構築に向けて	P.45~46	循環型社会の構築に向けた取り組み	施工段階における廃棄物排出量の削減	原単位(全現場) 原単位(新築)	P.17			
					施工段階のリサイクル率(汚泥等除く)	リサイクル率				
					建築新築工事における延べ床面積あたりの混廃量	住宅系混廃原単位 非住宅系混廃原単位	P.18			
					電子Manifestoの普及	電子Manifesto利用率				
					オフィスの一般廃棄物排出量の削減	排出量 原単位				
					オフィスの水使用量の削減	原単位				
生物多様性への取り組み	P.47~48	生物多様性の取り組み推進	現場における取り組み件数	DB登録件数	P.19					
			生物多様性関連の技術開発	開発テーマ件数						
企業市民としての 社会・地域貢献活動	人材育成 コミュニケーション	MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用	P.49~50	エコアクションの拡大	Me-pon運用者の増加 商品交換の利用ポイント	P.21	コミュニティー 参画および開発 環境			
		社会・地域とのコミュニケーション	P.51~52	地域とのコミュニケーション 震災ボランティアの実施	社会・地域貢献活動の普及 震災ボランティアの実施			DB登録件数 実施回数		

「地球への配当」が及ぼす“力”を検証する ～「地球への配当」インパクト評価～

(CSR報告書2014 P.19, 20参照)

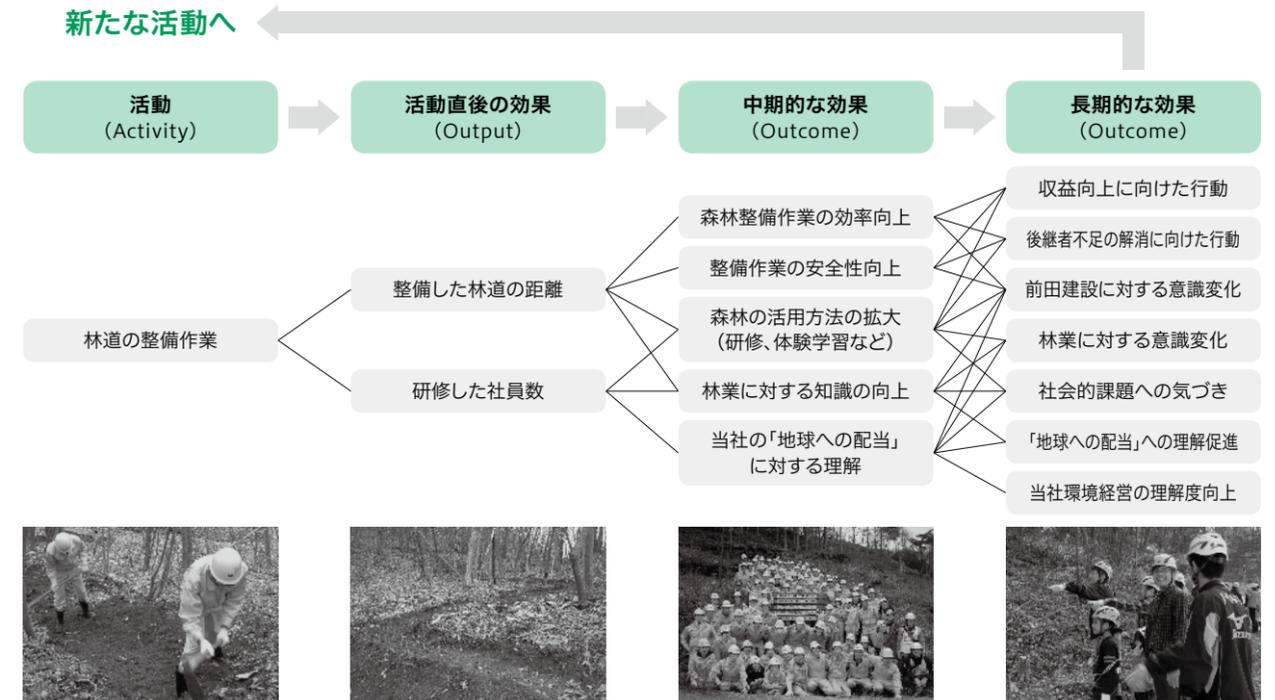
当社は、2010年度より「地球への配当」を通じた環境保全活動を実施しています。主に、「地球温暖化防止」、「生態系保全」、「環境教育」、「国際貢献」、「その他活動支援」に取り組み、2013年度からは地球環境保全につながる可能性のある研究開発や新規事業にも拠出できる「グリーンR&D」を加え、6つのカテゴリで運用しています。

これまで当社は、「地球への配当」の評価について、活動直後の効果(植樹した本数や活動参加人数など)を把握することにより成果を評価してきました。しかし、活動直後の効果だけでなく、活動がもたらす中長期的な効果(意識の向上や行動の変化など)や最終的な影響(インパクト)を明確にして、継続的に取り組む必要があります。

そこで、当社は、活動プロジェクトに対して、「Theory of Change」という手法を用いたインパクト評価を行う試みを始めました。「MAEDAの森佐久」の新入社員研修の活動例を参考に、当社の考えている「活動が最終的な影響をもたらすまでの仮説」のイメージを、次ページの図に示します。この図では、支援先のNPO法人を対象とした効果の仮説を示しています。この仮説に基づき、対象とする支援先の方に、活動直後や中長期的に得られる効果についてアンケートやヒアリングを実施した結果を、以下の一覧表に示します。また他のカテゴリの事例についても、同様の評価確認した結果を記載します。

当社は、「地球への配当」の今後の発展につなげるために、こうした評価を継続的にいき、社会に報告していきます。

●当社が考える「活動が最終的な影響をもたらすまでの仮説」のイメージ例(対象:NPO法人)



●「地球への配当」の活動事例を対象としたインパクト評価例

プラン	活動事例	支援先	支援先への活動後の成果	中長期的な効果
MAEDAの森 【地球温暖化防止】	「MAEDAの森佐久」における新入社員研修 ● 2012年度より、長野県佐久市にある当社保有林にて活動しているNPO法人と協働して新入社員に対する研修を実施。 ● 林道整備、伐採材の運搬など、林業体験を通じた環境教育を実施。	NPO法人	● 伐採材(10m ³)の運搬 ● フィールドを使った研修プログラムの構築方法	● 【行動】 充実した研修プログラムによるフィールドワークの実施 (想定外の影響) ● 当社との協働活動の実績から、支援先のNPO法人の対外的な信頼性が向上。 ● 実施プログラムが、林業の新たな可能性や地域貢献に結びついていると自治体から高評価。
MAEDA エコシステム 【生態系保全】	沖縄県竹富島ツマベニチョウ保護活動 ● 沖縄県竹富島に生息する「ツマベニチョウ」は、産卵期および幼虫期に必要なギョボク*の不足により、希少性を高める結果となっている。そのため竹富島の婦人会が中心となってギョボクの植樹と育樹を実施。 ● 2011年度より、この保護活動に対し、当社と専門家が協力し、婦人会への金銭的支援および技術的支援を実施。	地元婦人会	● ギョボクの育苗400本(200本/年×2年)育成中 ● 苗木の育て方(基本的な育成方法や虫よけのやり方) ● 前田建設の環境保全活動に対する取り組み	● 【行動】 ギョボクの育成と蝶の保護 ● 【行動】 行政と住民も巻き込んだ本活動の積極的な展開(広報活動など) ● 【意識】 前田建設に対する評価の向上 (想定外の影響) ● 婦人会メンバーによる育苗株数が限界に近い。地域の方々の協力が必要不可欠な状況。 ● 蝶の繁殖量と餌となるギョボクの量がバランスするのに、あと約5年が必要(専門家意見)。
MAEDA エコスクール 【環境教育】	MAEDA環境学習会 in 多摩動物園 ● 2011年度より、NPO法人と協力して、多摩動物公園にて子供たちへの環境教育を主な目的とした環境学習会を実施。 ● 家族で自然と触れ合える機会を作り、森の専門家とともに生物の知識をつけるような体験学習会。 ● 当社が企画・製作した子供向け絵本の読み聞かせ、プレゼントなども実施。	NPO法人	● 教育資料(環境学習絵本20冊) ● 当社社員による読み聞かせ(2名) ● 前田建設の環境保全活動に対する取り組み	● 【行動】 参加者、その子供たちの環境意識の向上(別の活動などへの参加) ● 【行動】 次回プログラムの充実 ● 【意識】 環境保全活動に積極的な企業という、有識者からの認識 (想定外の影響) ● NPO法人本来の活動である森林整備への影響から、イベント開催時期が限定。
MAEDA エコイード 【国際貢献】	タイマエダにおける環境活動の実施 ● 2012年度より、公益財団法人のタイにおける活動を支援し、その活動にタイマエダ職員が参加。 ● 2013年度はタイの学校で3回目の活動を90人規模で行い、タイル貼り、池の水草撤去、畑作業など、子供たちや地域住民の方とともに実施。	タイの学校	● タイル貼り替え…約15m ² ● 池の水草撤去…約700m ² ● 畑作業…約200m ² ● 清掃活動…沿道約4km	● 【行動】 地域住民の活動への理解、住民を巻き込んだ地域全体の活動へ発展 ● 【行動】 新たな活動計画に対する積極的かつ継続的な協力姿勢 (想定外の影響) ● 外国人がほとんど来ない地域のため、文化交流の時間も重要。
MAEDA エコエンジェル 【その他活動支援】	名取市海岸林再生プロジェクトへの支援 ● 2011年度より、公益財団法人と名取市海岸林再生の会主催のプロジェクトを支援。本活動は、延長5km、約100haの盛土上に約50万本のクロマツの植樹を約10年間かけて行う計画。 ● 育苗や植樹のボランティアだけでなく、資機材(事務所ハウス、防風ネットなど)の支援とともに、防風ネットの設置作業などのボランティアも実施。	公益財団法人 地元団体	● 活動参加人数…83名 ● 防風ネットの設置…約1,650m ² (高さ3m、延長550m)	● 【行動】 一年間に防風ネットを設置したエリアで育てられている育苗量…約5万本 ● 【意識】 前田建設に対する評価の向上(企業価値の向上) (想定外の影響) ● 地元で農業ができない方々の雇用創出(4~5名×1年程度)。 ● 防風ネット、仮設ハウスなどの資材支援が、想像以上に支援者の方々に満足していただいており、当社の支援活動仕方に対し、非常に高い評価をいただいている。

*ギョボク:チョウの幼虫のエサ、食草のこと

「法令等遵守(コンプライアンス)」

課題 企業統治、コンプライアンス、人権・人事・労務、教育・研修

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

ガバナンス体制と内部統制の運用

●理念等の浸透・定着:【KPI】経営規範に関する教育

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
新入社員教育の参加者率	100%	100%	100%	100%	◎	100%

コメント

当社の創業理念・社是を含めた「経営規範」を教育し、浸透させていく必要があります。定着させることを目的とし、新入社員を対象とした参加者率を指標として考えています。

リスクマネジメント

●BCPへの取り組み:【KPI】BCP訓練における安否確認

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
メール回答率	86%	100%	92%	—	—	—

コメント

発生が懸念される東南海地震などを想定し、会社・個人ともに事前対策の徹底を図りました。現状、目標値は特に定めていませんが、9割以上の高い回答を得ています。

●情報安全:【KPI】情報安全月間イベント参加者

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
参加者数	470人	307人	607人	400人以上	◎	(計画中)

コメント

参加者を増やすことはもとより継続的な啓蒙活動が重要なので、既イベント参加者のリピーター率向上のためにも、さらなるイベントアイテムの工夫と標語や各種事例などの応募作品の活用を図っていきます。

コンプライアンス

●CSR・コンプライアンス:【KPI】CSR戦略会議の実施、CSR・コンプライアンスアンケート、CSR・コンプライアンスレターの発行

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
戦略会議実施回数	9回	9回	9回	9回以上	◎	9回以上
アンケート回答率	63.4%	40.7%	75.2%	—	—	—
レター発行回数	4回	3回	1回	3回以上	×	3回以上

コメント

コンプライアンスに対する理解、意識の向上は重要であり、職員への浸透・定着をめざして、アンケートの実施、レターの発行を行っています。一時期アンケートの回答率は下がりましたが、2013年度は回答率が上がったため、意識向上に一定の成果が見られたと考えています。意識を低下させることなく、継続した取り組みを行うことが課題です。

健全な職場環境の構築、人材の育成

●人権・人事・労務:【KPI】人権問題に関する教育

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
1,3,5年次教育参加者率	98%	98%	99%	100%	○	100%

コメント

人権に対する教育については、導入教育から年次教育まで行っています。その参加者率を指標に、社員への浸透具合を確認しています。

●人権・人事・労務:【KPI】労務① ダイバーシティー関連

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
障がい者雇用率	1.91%	1.86%	1.83%	2.00%以上	△	2.00%以上
定年者再雇用率	85%	77%	85%	—	—	—
女性職員数(正社員)	236人	244人	260人	—	—	—
女性平均勤続年数	12.1年	12.6年	12.6年	—	—	—
女性管理職者数	14人	16人	17人	—	—	—
女性管理職比率	0.51%	0.58%	0.60%	—	—	—

コメント

ダイバーシティーを推進するため、定年者や障がい者の雇用促進、女性に優しい職場づくりなどをめざしていきます。

●人権・人事・労務:【KPI】労務② ワーク・ライフ・バランス関連

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
育児休業取得者数(女性)	15人	17人	11人	—	—	—
育児休業取得者数(男性)	2人	4人	3人	—	—	—
介護休業取得者数	0人	0人	0人	—	—	—
有給休暇取得率	13.5%	14.4%	14.1%	—	—	—
ボランティア休暇取得者数	198人	156人	130人	—	—	—

コメント

育児休業や有給休暇取得の奨励など、ワーク・ライフ・バランスの支援を充実させるよう取り組んでいます。また東北への企業ボランティアによるボランティア休暇取得者は減ってきていますが、これは支援の形を年々変化させ、募集人数の規模を縮小させているからです。ボランティア回数は、年8回程度を目標に、現在も継続して実施しています。

●人権・人事・労務:【KPI】人事(雇用・採用)関連

KPIの指標	2011年度 実績値	2012年度 実績値	2013年度 実績値	2013年度 目標値	2013年度 達成度	2014年度 目標値
全職員数(正社員)	2,746人	2,756人	2,796人	—	—	—
平均年齢	42.8歳	43.2歳	43.6歳	—	—	—
平均勤続年数	18.1年	18.4年	18.6年	—	—	—
新入社員採用人数	64人	69人	82人	—	—	—
建築系	34人	35人	35人	—	—	—
土木系	21人	24人	30人	—	—	—
事務系	9人	10人	17人	—	—	—

コメント

近年の建設業界の状況と中長期的な状況変化を踏まえ、採用人数などへの対策を講じています。

「優れた建造物・建設サービスの提供」

課題 品質、安全、技術開発、CSR調達

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

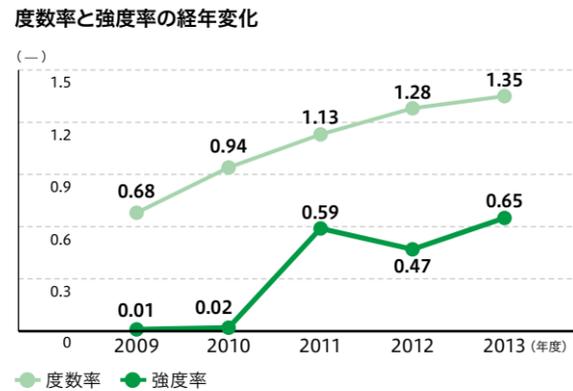
品質・安全に関する取り組み

●現場における安全への取り組み:【KPI】安全成績

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
度数率	1.13	1.28	1.35	—	—	—
強度率	0.59	0.47	0.65	—	—	—

度数率: (死傷者数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000,000 強度率: (労働損失日数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000

コメント
 当社の近年の労働災害に関する数値については、度数率、強度率ともに増加傾向を示しています。2013年度は死亡災害が3件発生しました。安全成績や災害件数の減少を図るため、災害事例の効果的な水平展開、作業手順の管理、重機・車両災害の防止、および経験の浅い職員、作業員への管理に重点を置いて取り組み、安全な職場環境の充実に努めています。



技術開発に関する取り組み

●環境技術の売上への寄与、普及・展開:【KPI】受注工事における選定環境技術の採用件数

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
採用件数(土木)	—	8件	10件	10件	◎	10件
採用件数(建築)	—	17件	15件	18件	×	10件

コメント
 土木について、受注および利益創出に貢献した件数は目標数値を達成できました。建築の目標未達の要因は、受注案件を絞って提案をしたことにあります。2014年度は、提案方法を考慮し、予測した受注件数から目標値を再設定しました。

調達に関する取り組み

●CSR・グリーン調達の推進:【KPI】施工段階のグリーン調達率(指定11品目)、オフィスの文具類グリーン調達率

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
施工段階のグリーン調達率	58%*	55%*	52%*	55%以上	○	55%以上
オフィスのグリーン調達率	78%	77%	75%	80%以上	△	80%以上

*2011、2012年度は「指定6品目(コンクリート3種、再生鋼材3種)」、2013年度は「指定11品目(コンクリート3種、再生鋼材3種、Low-Eガラス、複層ガラス、ノンフロン断熱材、LED照明、EM電線)」

コメント
 施工段階の調達率は指定品目を11品目に増やしたことで調達率が下がりましたが、95%以上達成しているため、目標達成に向けて再度取り組みます。オフィスのグリーン調達率は近年横ばい傾向のため、目標達成に向けた取り組みを推進します。

●CSR・グリーン調達の推進:【KPI】施工段階のグリーン調達率(28品目)

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
高炉コンクリート*	224,740 m ³	280,644 m ³	187,997 m ³	—	—	—
フライアッシュコンクリート*	6,986 m ³	36,292 m ³	20,922 m ³	—	—	—
再生コンクリート*	220 m ³	501 m ³	4,634 m ³	—	—	—
電炉H鋼*	2,583 t	3,293 t	7,659 t	—	—	—
電炉鋼矢板*	1,112 t	0 t	0 t	—	—	—
電炉鉄筋*	96,308 t	107,057 t	89,256 t	—	—	—
建設発生土再利用	19,931 m ³	86,803 m ³	421,665 m ³	—	—	—
建設汚泥から再生処理土	462 m ³	4,839 m ³	17,636 m ³	—	—	—
再生骨材など	19,871 t	25,033 t	27,368 t	—	—	—
再生加熱アス混合物	2,217 t	1,982 t	3,915 t	—	—	—
代替型枠	7,247 m ²	9,372 m ²	16,520 m ²	—	—	—
PC材	24,033 m ³	16,685 m ³	21,264 m ³	—	—	—
Low-Eガラス*	9,108 m ²	27,800 m ²	41,092 m ²	—	—	—
複層ガラス*	42,172 m ²	34,679 m ²	14,763 m ²	—	—	—
屋上緑化	1,524 m ²	3,306 m ²	2,086 m ²	—	—	—
壁面緑化	541 m ²	569 m ²	1,254 m ²	—	—	—
再生木質ボード	136,658 m ²	245,436 m ²	174,876 m ²	—	—	—
間伐材(国産材)	62 m ²	201 m ²	992 m ²	—	—	—
ノンフロン断熱材*	541,224 m ²	733,929 m ²	473,346 m ²	—	—	—
自動制御ブラインド	85 力所	0 力所	0 力所	—	—	—
地中熱利用システム	2 kW	56 kW	12 kW	—	—	—
太陽光発電	323 kW	3,075 kW	21,172 kW	—	—	—
太陽熱利用	4 m ²	0 m ²	0 m ²	—	—	—
風力発電	0 kW	0 kW	0 kW	—	—	—
燃料電池	0 kW	0 kW	0 kW	—	—	—
LED照明*	9,034 台	41,523 台	58,627 台	—	—	—
EM電線*	85,024 m	345,296 m	802,315 m	—	—	—
雨水利用設備	12 力所	3 力所	4 力所	—	—	—

コメント
 グリーン調達に関しては、おおむね調達量が増加の傾向にあります。これは、社会の省エネや創エネのニーズによるものだと考えています。太陽光発電については、FIT制度により、当社が自ら発電事業者となる取り組みを行っており、大幅に調達量が増加しています。また、グリーン調達については、特に重要と思われる11品目(表中※の品目)の調達率により目標管理を行っており、個別には目標値を設定していません。

●資材調達:【KPI】資機材(3品目)

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
コンクリート	929 千m ³	995 千m ³	882 千m ³	—	—	—
鋼材	100 千t	113 千t	99 千t	—	—	—
セメント	8 千t	12 千t	64 千t	—	—	—

コメント
 コンクリートや鋼材に関しては、大きな変動はありません。

「環境保全への取り組み」

課題 地球温暖化防止、廃棄物対策、生物多様性

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

環境保全活動の浸透・定着に向けたしくみづくり

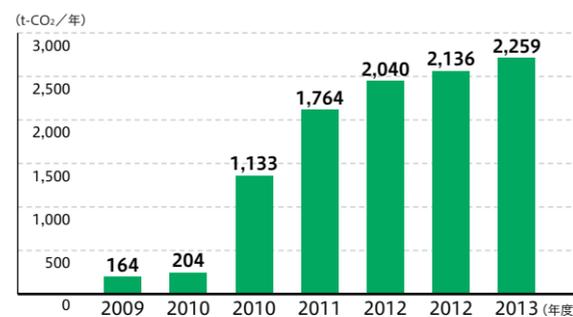
●環境教育の充実:【KPI】集合教育による環境意識の向上、eco検定取得者数の向上

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
集合教育の実施回数	5回	6回	6回	6回以上	◎	6回以上
エコ検定取得者率	74%	78%	80%	79%以上	◎	81%以上

対象としている環境に関する集合教育

対象者	実施内容
①新入社員導入教育	当社規範類、CSR・コンプライアンスの基礎など
②1年次職種別集合教育	CSR・環境経営の基礎
③1年次環境教育	廃棄物処理の基礎、現地視察など
④3年次職種別集合教育	CSR・環境経営、コンプライアンスなど
⑤4年次集合教育	EMS規程類の教育、運用方法など
⑥5年次職種別集合教育	CSR・環境経営の詳細、事例説明など

Eco検定合格者の推移(累計)



コメント

「環境経営No.1」を掲げている当社は、若手職員を対象として、CSR・コンプライアンスやMAEDAの環境経営など、環境に対する理解度向上に努めています。環境教育の機会を充実させ、浸透・定着できるように、毎年教育プログラムを見直しています。また環境に対する基礎知識の拡充を目的として、エコ検定の取得推進をしており、約80%(2,259人、2014年3月現在)の職員が有資格者となっています。

●環境に関するしくみの充実:【KPI】「地球への配当」拠出額、グリーンR&Dの採用件数

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
拠出額(実績)	29,400(千円)	40,000(千円)	48,000(千円)	—	—	—
グリーンR&D採用件数	—	—	5件	新規3件以上	◎	新規3件以上

※「地球への配当」の詳細については、「CSR報告書2014 P.19、20、41」、「別冊 P.7、8」を参照ください。

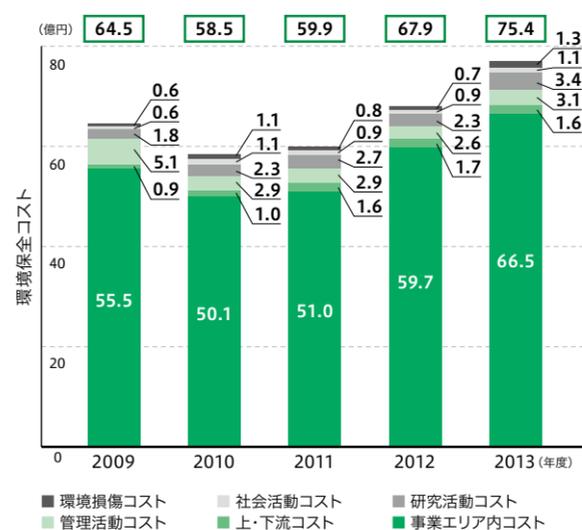
コメント

当社では、連結純利益の2%を「地球への配当」として拠出し、地球環境保全活動を推進しています。ただ支援金を拠出するだけでなく、長期的な視点に立って支援できるプランやプロジェクト、また社員やその家族が参加できる活動など、いくつかの条件を満足していることを確認した上で、NPOなどに対して支援し、協働しながら環境活動を行っています。2013年度からは、「MAEDAグリーンR&D」という、未来の地球環境保全につながる可能性のある研究開発や事業などについても資金を拠出することを決め、2013年度は5件採用しました。

●環境保全コストの集計:【KPI】環境保全コスト

環境保全コスト区分		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		
大区分	中区分	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	大気汚染防止	4.6	(7.1)	3.1	(5.3)	2.9	(4.8)	3.9	(5.8)	7.0	(9.1)
		水質汚濁防止	10.7	(16.6)	6.8	(11.6)	6.1	(10.2)	4.4	(6.5)	8.8	(11.4)
		土壌、地下水汚染防止	0.5	(0.8)	0.5	(0.9)	0.3	(0.5)	5.3	(7.8)	0.1	(0.1)
		騒音、振動防止	2.6	(4.0)	2.5	(4.3)	2.6	(4.3)	3.2	(4.8)	5.8	(7.6)
		地盤沈下防止	0.5	(0.8)	0.0	(0.0)	0.8	(1.3)	0.1	(0.1)	0.2	(0.3)
		その他公害防止	0.1	(0.2)	0.4	(0.7)	0.2	(0.4)	0.2	(0.2)	0.7	(0.9)
		小計	19.0	(29.5)	13.4	(22.9)	12.9	(21.5)	17.1	(25.2)	22.6	(29.4)
	地球環境保全コスト	温暖化防止・省エネルギー	0.2	(0.3)	0.2	(0.4)	0.4	(0.7)	0.2	(0.2)	2.4	(3.1)
		オゾン層破壊防止、その他	1.1	(1.7)	0.4	(0.7)	2.1	(3.5)	0.8	(1.2)	0.0	(0.0)
		小計	1.3	(2.0)	0.6	(1.1)	2.5	(4.2)	1.0	(1.4)	2.4	(3.1)
資源循環コスト	建設副産物減量化、リサイクル	7.1	(11.0)	4.8	(8.2)	3.4	(5.7)	5.6	(8.2)	2.7	(3.5)	
	節水、雨水利用等コスト	0.3	(0.5)	0.1	(0.2)	0.2	(0.3)	0.1	(0.1)	0.1	(0.1)	
	廃棄物処理費	27.8	(43.1)	31.2	(53.4)	32.0	(53.4)	35.9	(52.8)	38.7	(50.4)	
	小計	35.2	(54.6)	36.1	(61.8)	35.6	(59.4)	41.6	(61.1)	41.5	(54.0)	
事業エリア内コスト計		55.5	(86.0)	50.1	(85.7)	51.0	(85.1)	59.7	(87.7)	66.5	(86.5)	
上・下流コスト	グリーン購入のためのコスト	0.4	(0.6)	0.3	(0.5)	0.6	(1.0)	0.6	(1.0)	0.5	(0.7)	
	環境配慮設計コスト	0.5	(0.8)	0.7	(1.2)	1.0	(1.7)	1.1	(1.6)	1.0	(1.4)	
	小計	0.9	(1.4)	1.0	(1.7)	1.6	(2.7)	1.7	(2.6)	1.6	(2.1)	
管理活動コスト	環境教育費用	0.4	(0.6)	0.4	(0.7)	0.4	(0.7)	0.3	(0.4)	0.4	(0.5)	
	EMS運用コスト	1.1	(1.7)	0.9	(1.6)	0.9	(1.5)	0.9	(1.3)	0.9	(1.1)	
	環境負荷の監視・測定	2.9	(4.5)	0.8	(1.3)	0.8	(1.3)	0.6	(1.0)	1.0	(1.2)	
	環境関連部門コスト	0.7	(1.1)	0.8	(1.3)	0.8	(1.3)	0.8	(1.2)	0.9	(1.2)	
	小計	5.1	(7.9)	2.9	(4.9)	2.9	(4.8)	2.6	(3.9)	3.1	(4.0)	
研究活動コスト	小計	1.8	(2.8)	2.3	(3.9)	2.7	(4.6)	2.3	(3.4)	3.4	(4.4)	
社会活動コスト	現場周辺美化対策コスト	0.1	(0.2)	0.0	(0.0)	0.1	(0.2)	0.1	(0.1)	0.1	(0.1)	
	地域支援・環境関連基金・寄付等	0.1	(0.2)	0.6	(1.0)	0.3	(0.5)	0.4	(0.6)	0.7	(0.9)	
	情報公開・環境広告コスト	0.4	(0.6)	0.5	(0.9)	0.5	(0.8)	0.4	(0.6)	0.3	(0.4)	
	小計	0.6	(0.9)	1.1	(1.8)	0.9	(1.5)	0.9	(1.3)	1.1	(1.4)	
環境損傷コスト	土壌汚染、自然破壊等の修復コスト	0.6	(0.9)	1.1	(1.9)	0.8	(1.3)	0.6	(1.0)	1.3	(1.6)	
	環境の損傷に対応する引当金	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.1	(0.1)	0.0	(0.0)	
	環境保全に関わる和解金、補償金	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	
	小計	0.6	(0.9)	1.1	(1.9)	0.8	(1.3)	0.7	(1.1)	1.3	(1.6)	
環境保全コスト	合計	64.5	(100.0)	58.5	(100.0)	59.9	(100.0)	67.9	(100.0)	75.4	(100.0)	

環境保全コスト



環境効率および施工利益率



(CO₂に関する環境効率) = (施工利益率) / (CO₂排出量) で算出し、2006年度を基準とした比較
 (廃棄物に関する環境効率) = (施工利益率) / (新設に関わる廃棄物排出量) で算出し、2006年度を基準とした比較

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

地球温暖化防止に関する取り組み

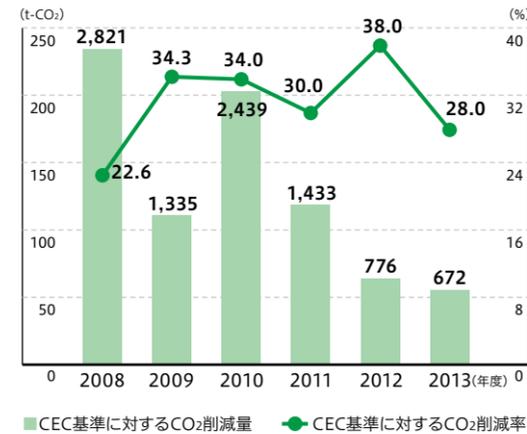
●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】設計段階:建物運用段階におけるCO₂排出量抑制

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
CO ₂ 削減率	30%	38%	28%	—	—	—
CO ₂ 削減量	1,433t-CO ₂	776t-CO ₂	672t-CO ₂	—	—	—

コメント

建物運用段階におけるCO₂予測排出量の削減率は、例年25%以上の削減を目標とし、今年度まで達成できています。

建物運用段階におけるCO₂発生抑制に関する推移



●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階におけるCO₂排出量の削減

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
CO ₂ 排出量原単位(全社)	27.2 t-CO ₂ /億円	30.0 t-CO ₂ /億円	31.0 t-CO ₂ /億円	31.2 t-CO ₂ /億円以下	◎	29.9 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出量原単位(土木)	61.6 t-CO ₂ /億円	65.5 t-CO ₂ /億円	65.4 t-CO ₂ /億円	67.2 t-CO ₂ /億円以下	◎	60.1 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出量原単位(建築)	12.3 t-CO ₂ /億円	11.8 t-CO ₂ /億円	10.9 t-CO ₂ /億円	11.5 t-CO ₂ /億円以下	◎	11.7 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出量	61 千t-CO ₂	80 千t-CO ₂	92 千t-CO ₂	—	—	—

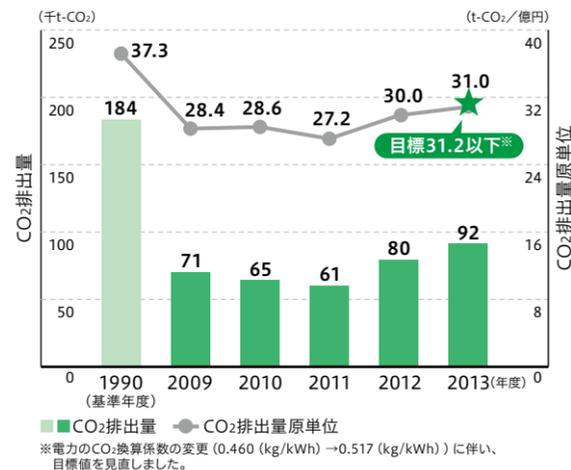
コメント

【CO₂排出量】 建設事業における施工高の増加や、電力のCO₂排出量換算係数(使用電力量1kWhあたりのCO₂排出量)の上昇が影響した結果、2013年度の施工段階におけるCO₂排出量は92千t-CO₂(1990年度比50.1%削減)となり、近年増加傾向を示しています。

【CO₂排出量原単位】 同様の影響により、原単位も増加傾向を示し、2013年度は31.0t-CO₂/億円(1990年度比16.9%削減)という結果になりました。ただし、目標値を達成できたこと、土木・建築別に確認すると2012年度から減少していることから、現場のCO₂削減に対する意識が十分浸透・定着し、削減活動が着実に実施されていることが伺えます。

【中長期目標の見直し(P.4参照)】 近年のエネルギー事情と業界の状況から、中長期目標を見直しました。着目年度を2020、2030、2050年度の3パターンとし、指標を総排出量と排出量原単位の2パターンとしました。各年度で着実に目標を達成できるよう、これからもCO₂削減に向けた取り組みを充実させていきます。

CO₂(施工活動)の推移



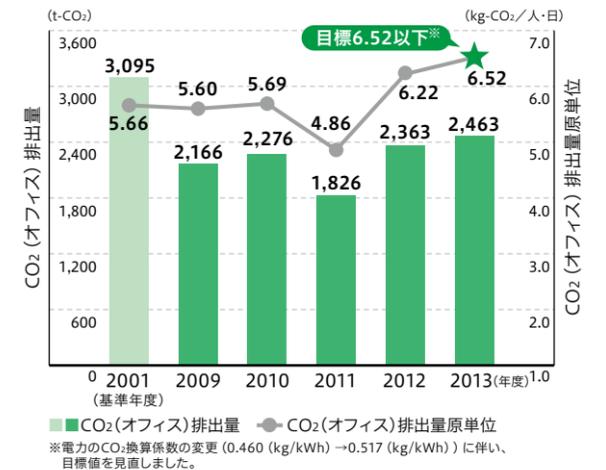
●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスの電力使用量によるCO₂排出量削減

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
CO ₂ 排出量原単位	4.86 kg-CO ₂ /人・日	6.24 kg-CO ₂ /人・日	6.52 kg-CO ₂ /人・日	6.52 kg-CO ₂ /人・日以下	◎	6.18 kg-CO ₂ /人・日以下
CO ₂ 排出量	1,826 t-CO ₂	2,371 t-CO ₂	2,463 t-CO ₂	2,518 t-CO ₂ 以下	◎	2,383 t-CO ₂ 以下

コメント

オフィスでは、電力のCO₂排出量換算係数(使用電力量1kWhあたりのCO₂排出量)の上昇が影響した結果、2012年度以降、CO₂排出量、原単位ともに増加傾向を示しています。ただし、両指標ともに目標値を達成できていることから、オフィスにおける電力使用量の削減活動は着実に実施できていることが伺えます。

CO₂(オフィス活動)の推移



●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】事業活動の上下流において排出される間接的な排出量(スコープ3)

カテゴリー	算定範囲	2012年度実績値(t-CO ₂)	2013年度実績値(t-CO ₂)
1. 購入した製品・サービス	当社が購入した製品のうち、購入金額を把握できている製品の排出量	629,380	696,901
2. 資本財	購入または取得した資本財(有形固定資産、土地を除く)の建設・製造および輸送から発生する排出量	12,510	6,655
3. スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	自社が購入した燃料の上流側の排出量	3,924	5,965
4. 輸送、配送(上流)	当社が購入した建造物の躯体関係(生コン、鉄筋など)の物流に関する排出量	3,086	3,021
5. 事業から出る廃棄物	自社の事業活動から発生する廃棄物(有償の物を除く)の自社以外での「廃棄」と「処理」に係る排出量および廃棄物の輸送に係る排出量	33,495	29,736
7. 雇用者の通勤	社員	1,039	1,338
	作業員	19,733	17,699
11. 販売した製品の使用	自社施工した建造物の使用に伴う排出量のうち、「事務所ビル」「卸・小売業」「飲食店」「学校」「ホテル・旅館」「病院」「集合住宅など」の建築物に係る排出量 ※建物の供用期間(60年と設定)における排出量としたことから、(年間排出量)×(供用期間)で算定	11,378,000	10,473,589
12. 販売した製品の廃棄	自社施工した建造物の「廃棄」と「処理」に係る排出量 ※具体的には、自社購入した製品のうち、「コンクリート」「鉄筋」「鉄骨」「PC」から、それぞれの廃棄物量を差し引いた物量を計算し、これを「販売した製品」と仮定して将来「廃棄」「処理」される量と想定	227,108	197,472
13. リース資産(下流)	当社が賃貸事業者として所有し、他者建物の運用に伴う排出量	5,919	6,048
合計		12,314,494	11,438,729

※カテゴリー8「リース資産(上流)」、9「輸送、配送(下流)」、10「販売した製品の加工」、14「フランチャイズ」、15「投資」は対象外といたしました。
※環境省が開催した、環境情報開示システム試行事業に参加し、スコープ3算定支援を受け、算定しました。

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

循環型社会の構築に向けて

●循環型社会の構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階における廃棄物排出量の削減

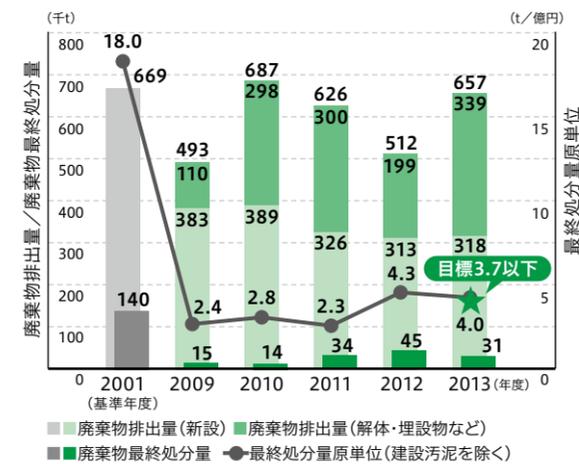
KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
最終処分量(汚泥除く)原単位(全社)	2.4t/億円	4.3t/億円	4.0t/億円	3.7t/億円以下	△	—
最終処分量(汚泥除く)原単位(土木)	1.8t/億円	2.5t/億円	2.9t/億円	2.6t/億円以下	△	—
最終処分量(汚泥除く)原単位(建築)	2.7t/億円	5.2t/億円	4.6t/億円	4.4t/億円以下	○	—
最終処分量(汚泥除く)原単位(建築:新築工事のみ)	1.4t/億円	2.3t/億円	1.8t/億円	2.2t/億円以下	◎	—
廃棄物排出量(全体)	626千t	512千t	657千t	—	—	—
廃棄物排出量(新築のみ)	326千t	313千t	318千t	—	—	—
廃棄物排出量(解体のみ)	300千t	199千t	339千t	—	—	—
廃棄物最終処分量	34千t	45千t	31千t	—	—	—

コメント

【廃棄物排出量】当社が排出した全廃棄物排出量は、657千t(新築:318千t、解体:339千t)となりました。大規模再開発工事の着工などの影響から、解体関連の廃棄物が大幅に増加し、廃棄物総排出量は前年度比28.1%増となりましたが新設工事に伴う廃棄物排出量は昨年度比同等となりました。

【最終処分量(汚泥除く)原単位】施工高1億円あたりの最終処分量(汚泥除く)は4.0t/億円と、当期目標値3.7t/億円を上回る結果となりました。これは解体関連の廃棄物が計画していたよりも多かったことが一因です。同様の理由により、土木別に見ても、目標値を達成できませんでした。また2014年度からは、最終処分量(汚泥除く)原単位により目標設定は終了し、リサイクル率(汚泥等除く)による目標管理に変更します。

廃棄物(施工活動)の推移



●循環型社会の構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階のリサイクル率(汚泥等除く*)

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
リサイクル率(汚泥等除く)(全社)	98.9%	97.0%	97.7%	98.0%以上	○	98.0%以上
リサイクル率(汚泥等除く)(土木)	99.1%	98.3%	98.2%	99.0%以上	○	99.0%以上
リサイクル率(汚泥等除く)(建築)	98.8%	96.3%	97.4%	98.0%以上	○	98.0%以上

*対象年度に排出した廃棄物のうち、「建設汚泥」、「石綿含有廃棄物」、「特別管理型廃棄物」を対象外としている。
【リサイクル率(%)】:(排出量-最終処分量)/排出量×100

コメント

「リサイクル率(汚泥等除く)」については、2013年度より目標値として設定し、循環型社会の構築をめざした管理指標として推移を確認します。本項目の目標値は、中期環境計画実施期間である2015年度まで一定として設定しました。2013年度は目標未達でしたが、2015年度までに達成できるよう、廃棄物最終処分量の削減に努めます。

●循環型社会の構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:建築新築工事における延べ床面積あたりの混廃量

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
住宅系混廃原単位(延べ床面積あたり)	11.5kg/m ²	22.2kg/m ²	13.7kg/m ²	—	—	16.5kg/m ² 以下
非住宅系混廃原単位(延べ床面積あたり)	10.6kg/m ²	8.9kg/m ²	12.4kg/m ²	—	—	10.8kg/m ² 以下

コメント

過去の実績を参考に、2014年度から目標値を設定しました。対象年度の完成工事を集計対象としているため、その年度の用途件数に左右される可能性はありますが、混合廃棄物排出量減少をめざし、取り組んでいきます。

●循環型社会の構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:電子Manifestoの普及

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
電子Manifesto利用率	73%	76%	75%	76%以上	○	78%以上

コメント

電子Manifestoの普及を推進しています。地域により利用率が大きく異なるため、その格差を埋め、利用率が向上するように努めています。

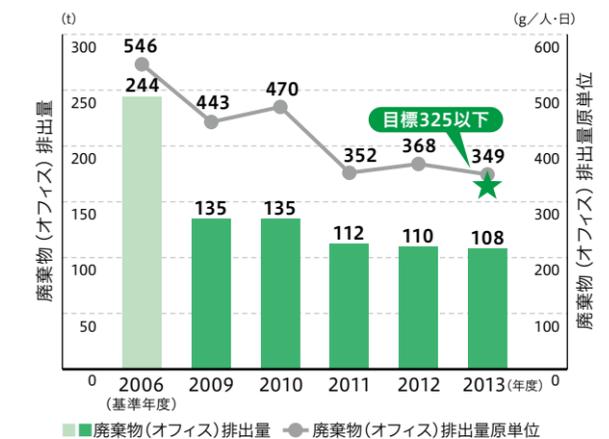
●循環型社会の構築に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスの一般廃棄物排出量の削減

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
廃棄物排出量原単位	352g/人・日	368g/人・日	349g/人・日	325g/人・日以下	△	325g/人・日以下
廃棄物排出量	112t	110t	108t	97t以下	×	97t以下

コメント

オフィスの廃棄物目標は、排出量、排出量原単位ともに、中期環境計画実施期間である2015年度まで一定として設定しました。両項目とも目標には未達でしたが、目標達成に向けて減少傾向を示しています。2015年度までに達成できるよう努めてまいります。

廃棄物(オフィス活動)の推移



●循環型社会の構築に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスの水使用量の削減

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
水使用量原単位	—	109L/人・日	74L/人・日	104L/人・日以下	◎	70L/人・日以下

コメント

オフィスの水使用量の削減については、2013年度から目標設定をして削減活動を推進しています。2013年度は目標を大幅に達成できました。2014年度以降も、実績推移を確認しながら目標を達成できるように活動を充実させていきます。

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

生物多様性への取り組み

●生物多様性の取り組み推進:[KPI]現場における取り組み件数

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
環境取り組みDB登録件数	3件	3件	25件	10件以上	◎	15件以上

コメント

2013年度4月に「MAEDA生物多様性ガイドライン」を策定し、全支店において生物多様性の教育を実施しました。2013年度から登録件数を目標値に掲げ、現場の事例を充実させるとともに、職員の生物多様性に関する知識・意識の向上を目的としています。その結果、2013年度は一定の成果が得られたと思っています。数値を目標にするのではなく、その中身を発展させていこう、新たな取り組みにも挑戦していきたいと考えています。

●生物多様性の取り組み推進:[KPI]生物多様性関連の技術開発

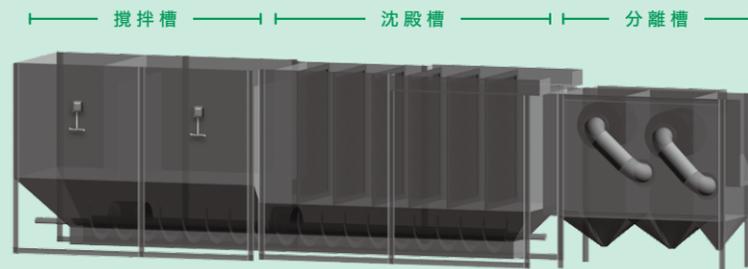
KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
開発テーマ研究の件数	1件	2件	5件	5件以上	◎	5件以上

コメント

生物多様性への取り組みは、現場での取り組みを充実させるとともに、現場や設計に活かせる技術開発にも注力しています。これは、「MAEDA生物多様性ガイドライン」に示されている「MAEDA6つの大目標」の一つに掲げられています。

技術紹介 AQUA-FILTER SYSTEM(アクア・フィルターシステム)

「AQUA-FILTER SYSTEM」は、美しい自然を守るため、さまざまな工事状況・過程で発生した濁水を、きれいに自然に戻すための濁水処理システムです。懸濁物質の凝集性能に優れながらも、魚毒性の少ない無機系粉体凝集材を採用。この凝集材の性能を最大限に発揮できる専用の設備を組み合わせることで、省スペース・省メンテナンスな設備でありながら、工事濁水を水道水並みに清澄化する処理を実現しました。



急速攪拌・緩速攪拌により、凝集反応を促進

整流フィルターで濁水の流れを制御することで、小型設備で99%以上のSSを重力沈降により分離

沈殿槽で分離しきれない細かいフロックをろ過し処理水品質を向上

活動報告 「生物多様性アクション大賞」への協賛

「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が主催する「生物多様性アクション大賞」は、2013年に新たに作られた表彰案件です。規模の大小や活動場所にこだわらず、自然を守る活動、地域づくり、次世代教育などに生物多様性を通して取り組んでいる「草の根的活動」にスポットをあてています。現場における生物多様性の活動を推進している当社と同じ目標を持ち、また他団体や企業の活動情報を収集して参考にできることから、本件への協賛を決定しました。

本件への協賛を通して、当社の事業における生態系保全活動や企業としての取り組みが充実し、本件で表彰されるレベルに達することをめざします。



「生物多様性アクション大賞」表彰式
(プレゼンター:勝又CSR・環境担当役員(右))

グループ会社の環境データ一覧

KPIの指標		2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
(株)ジェイシティー	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	2,851	5,410	5,350
	廃棄物排出量 (t)	125	69	73
	水使用量 (m ³)	58,295	39,366	44,432
フジミ工研(株)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	797	779	1,043
	廃棄物排出量 (t)	21,997	23,820	21,506
	水使用量 (m ³)	29,228	20,542	21,332
(株)JM	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	54	45	39
	廃棄物排出量 (t)	0	0	0
	水使用量 (m ³)	659	692	692
(株)ミヤマ工業	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	30	33	34
	廃棄物排出量 (t)	0	0	0
	水使用量 (m ³)	297	231	292
フジミビルサービス(株)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	46	48	58
	廃棄物排出量 (t)	0	0	0
	水使用量 (m ³)	642	604	648
光が丘産(株)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	464	526	526
	廃棄物排出量 (t)	0	0	0
	水使用量 (m ³)	8,793	9,547	11,569
(株)篠ノ井ゴルフパーク	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	323	334	315
	廃棄物排出量 (t)	10	9	10
	水使用量 (m ³)	16,123	18,997	18,175
正友地所(株)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	13	15	10
	廃棄物排出量 (t)	0	0	0
	水使用量 (m ³)	101	97	31
総計	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	4,579	7,191	7,343
	廃棄物排出量 (t)	22,132	23,898	21,589
	水使用量 (m ³)	114,138	90,076	97,171

※オフィス活動の廃棄物排出量について、テナントのため集計が難しい会社は、数値を0としている。

コメント

MAEDAグループは、建設関連の事業だけでなく、多様な業種から成り立っています。全国展開している事業もあれば、地域に根差して活動している会社もあります。今回、データブックに掲載している環境数値は、CO₂排出量、廃棄物排出量、水使用量の主要3項目に絞っています。多様な事業形態のため、取得不可能なケースや限定されるケースがありますが、各会社が取得できる範囲を明確にして、数値を集計しています。今後、削減に向けた活動を充実させ、グループ全体の環境負荷低減に努めていきます。

MAEDAの「CSRの4本柱」

「企業市民としての社会・地域貢献活動」

課題 人材育成、コミュニケーション

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用

●エコアクションの拡大:【KPI】Me-pon運用者の増加

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
実運用者率	—	17%	20%	19%以上	◎	21%以上
商品交換ポイント	206,785 P/年	358,005 P/年	580,675 P/年	400,000 P/年以上	◎	450,000 P/年以上
累計の取得ポイント	1,240,287 P	2,056,352 P	2,883,497 P	—	—	—
累計の交換ポイント	257,245 P	615,250 P	1,195,925 P	—	—	—
社員参加人数	2,668人	2,691人	2,664人	—	—	—
家族参加人数	665人	586人	727人	—	—	—

コメント

2010年から運用している当社独自のMAEDAエコポイント制度「Me-pon」は、個人の環境活動を推進するとともに、環境に対する意識向上を目的としています。2013年度から具体的な目標を掲げて企画・運営するために、実運用者数の増加とポイントの利用促進を管理項目として、「Me-pon」の普及に努めました。その結果、目標を大幅に達成する結果が得られました。今後も、さらなる普及促進と魅力ある企画づくりを目的として、現状に満足せず継続して実施していきます。

社会・地域とのコミュニケーション

●地域とのコミュニケーション:【KPI】社会・地域貢献活動の普及

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
社会貢献活動DB登録件数	530件	590件	512件	—	—	—

コメント

各支店や営業所、現場における社会貢献活動の推進を目的として、データベース(DB)への登録を行っています。支店からの推薦とその取り組み内容から、年2回、表彰を行っています。活動自体は定着してきたため、全社の目標は特にありませんが、各支店で目標を決めて取り組まれています。

●震災ボランティアの実施:【KPI】震災ボランティアの実施

KPIの指標	2011年度実績値	2012年度実績値	2013年度実績値	2013年度目標値	2013年度達成度	2014年度目標値
実施回数	11回	10回	8回	8回以上	◎	8回以上

コメント

震災ボランティアは、2011年6月から継続して実施しています。その間、支援先のニーズも変化し、ボランティアの活動内容も少しずつ変化してきています。これからも継続した支援を実施するため、現地担当者とのコミュニケーションを充実させ、地元に着いた活動ができるように心掛けていきます。

外部表彰・外部評価

2013年4月から2014年3月までの外部表彰、外部評価の結果を掲載します。

表彰・アンケート名	主催	表彰・評価結果
誠実な企業賞2014 ~Integrity Award~	「誠実な企業」賞 -Integrity Award- 審議会	優秀賞 ・長期視点での経営を志向 ・「環境経営No.1」を目指した継続的な取り組み ・土木・建築のリニューアルや再生可能エネルギー事業への取り組み
エコユニットアワード	東京商工会議所	優秀賞 ・環境先進企業を目指した活動を展開 ・NPOと協働した被災者への自然体験・環境学習会の実施 ・緑のカーテンの更なる普及に向けた企画の実行 ・タイの環境教育・活動の実施(社会的課題の解決と環境経営の両立)
環境コミュニケーション大賞	環境省	優秀賞 ・充実した環境データの情報提供(特にエネルギー関連およびCO ₂) ・生物多様性に関する取り組みの充実 ・生物多様性方針の策定と、方針に基づく継続的な活動 ・環境部門の主導だけでなく、事業の軸でも取り組んでいる環境活動 ・環境情報だけでなく財務情報との関連づけも明確
グッドライフアワード	環境省	審査員特別賞 ・MAEDAエコポイント制度「Me-pon」に対する高評価 ・企業と社会だけでなく、企業と社員の新しい関係の構築をめざす、企業価値創造の新しい可能性
温暖化配慮行動計画書兼報告書	千代田区	環境教育部門賞 ・従業員などへの環境教育において、優良な取り組みを実施
土木学会論文賞	公益財団法人 土木学会	土木情報学論文賞(平田 昌史、他4名) 「車両速度とエンジン回転速度を用いたダンブトラックの省燃費運転評価手法(ECO-Dash)」
環境経営度調査	日経新聞	建設業 8位
第13回インテグレックス調査	(株)インテグレックス	全産業 2位 総合建設業 1位
CSR企業ランキング	東洋経済	168位(総合建設業 5位)
ふなの森環境アンケート	NKSJ	Aランク(業界トップ25%内)
モーニングスター社会的責任投資 株価指数	モーニングスター(株)	建設会社から選定された4社のうち、1社(2014年3月現在)
3R推進功労者等表彰	3R推進協議会	国土交通大臣賞:関西支店 三宝西(作) 会長賞:東京建築支店 晴海三丁目(作)、九州支店 舞鶴小中学校(作)
第12回屋上壁面・ 特殊緑化技術コンクール	公益財団法人 都市緑化機構	壁面・特殊緑化部門 審査委員会特別賞:中部支店 松阪市庁舎JV(作)
2013年度優良現場表彰	日建連九州支部	環境対策優良現場:九州支店 山口第一トンネル(作)
第34回見える!わかる! 下水道工事コンクール	東京都公営企業管理者	下水道管きょ部門建設工事の部 最優秀賞:東京土木支店 野川3(作)
総合技術賞	公益社団法人 土木学会東北支部	受賞:東北支店 原町トンネル(作)
エコ検定アワード (エコビープル部門)	東京商工会議所	大賞:調達部 林 昌明
「私たちの主張-未来を創造する 建設業」作文コンクール	国土交通省	佳作:三宝西作業所(現 土木技術部) 田中 麻穂
国際活動奨励賞	公益財団法人土木学会	受賞:海外事業本部 山根 薫
第32回小沢海外功労賞	国際建設技術協会	受賞:香港支店 DSDチュンワン作業所 松樹 道一

受賞案件

評価案件

現場表彰

個人表彰